

第1学年〇組 英語科学習指導案

授業者 蓬 澤 守

1 単 元 PROGRAM 6 The Way to School

(Sunshine English Course 1)

2 単元について

(1) 題材について

本課は、エミリーが『世界の果ての通学路』という映画について、登場人物であるジャクソンや彼の置かれている状況について健に説明する場面から始まる。置かれた状況を乗り越え、生活する姿や彼の夢について共有することで話は展開していく。

私たちが普段、安心・安全に学校に通っていることは、地球規模で考えた際には当たり前ではないということやその中でも必死に自分の夢のために努力する人たちがいることの尊さを改めて考えさせてくれる題材である。英語を用いて、相手に自分の意思や考えを整理し伝えることや、相手から情報等を聞き取ることなどの大切さについても考えさせ、論理的な意見・情報を発信できるよう指導していきたい。

(2) 言語材料について

本課では「人称を表す代名詞（目的格）」、「疑問詞whyおよび接続詞because」について学習する。「人称を表す代名詞（目的格）」については、be 動詞や一般動詞を伴い代名詞を用いることで、動作の対象として、その人を詳細に表す方法を学習する。既習であるほかの「人称を表す代名詞」との関係性を整理することで、表現の幅が広がる。話し手の立場から適切な代名詞を設定することに留意しながらも、自分の考えや気持ちも伝えることのできる表現方法である。

「疑問詞whyおよび接続詞because」については、すでに小学校で扱っている内容にはなるが、中学校ではこれらの文法事項に関する意味や文構造および答え方に焦点を置き学習する。意味や文構造を把握しながら、理由を答えさせることで、正確に自分自身の気持ちや考えの根拠を相手に伝えることができるようになる。

これらについては、文における語順や表す意味に焦点を当て、適切な場面において使用させることで、定着を図っていくようにする。そして仲間との協働の中で運用させながら、最終的には自分の感情や考えと共に活用させられるようにしたい。

(3) 学校研究との関わりについて

英語科では、「主体的・対話的で深い学び」を進める中で、生徒一人一人の挑戦心を育むことで資質・能力の育成を図ることができるよう、以下の二つの手立てによって授業実践を進めている。

【手立て1：「挑戦心を引き出す学習指導の工夫」】について、相手意識を持った英語による情報交換を進められるよう指導や支援を行っている。自分しか知り得ない情報を他者に伝える際、相手の理解度を確認しながら、使用する表現や言語、また伝達内容を工夫する必要がある。テーマ会話活動や課題解決型の活動などを取り入れる中で、生徒同士での英語でのやり取りから生徒が粘り強く取り組めるよう、継続的な指導を積み重ねている。

【手立て2「個別最適な学びの工夫」】について、生徒が自ら課題を捉え、生徒自身が現状と目標との差を理解することが必要であり、各授業や活動における振り返りが重要となる。例えば、他者の考えを聞き、相互評価を行う活動においても、適切な評価基準を設定しながら、仲間への振り返りを行わせる必要がある。その過程で、自身の意見やパフォーマンスと比較をさせることで、自己の課題もより明確になり、学習への見通しや挑戦心を持つことに繋がるような工夫を行っている。

本課ではまとめの活動として、自分の尊敬する人物や紹介したい人物について、相手意識を持ちながら自分の考えや意見を表現する場面を設定する。聞き手が理解しやすいような内容、話し方だけではなく、効果的な伝え方についても目を向けさせ、考えさせたい。

3 生徒の実態

男女の分け隔てなく様々な場面で互いに協力し、一生懸命取り組むことのできる学級である。特に「聞くこと」や「話すこと」の活動においては、既習の事項を活用して自分の意見を積極的に伝えたり、相手からの意見を受容したりする姿が見られる。また仲間の努力を認め、自己の改善のために努力を積み重ねることのできる生徒も増えてきており、英語を使えるようになりたいという姿勢が多くの子に見られるようになってきた。

一方、現状として、英語を用いて自分の考えや意見を交わす活動に自信がなく、積極的に取り組むことのできない生徒も少なからずいる。基礎的・基本的な文のつくり方や用法を確認し、十分な練習を行った後で活用させるなど、段階を踏んだ授業展開を行い、適宜教師からのフィードバックを行うことで、自信をもって表現できるよう工夫をする。また活動形態をペアやグループなど、生徒同士で学び、支援できる環境を整え、全員がその授業1時間で「成長できた」と実感できる支援を行いたい。

4 単元目標

自分の尊敬する人物や紹介したい人物について、「人称を表す代名詞（目的格）」や「疑問詞whyおよび接続詞because」の特徴やきまりに関する事項を活用しながら、自分の考えを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を英語で表すことができる。

- ・「人称を表す代名詞（目的格）」や「疑問詞whyおよび接続詞because」の特徴やきまりに関する事項を理解し、使用する技能を身に付けている。〈知識及び技能〉
- ・自分の尊敬する人物や紹介したい人物について、自分の考えを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話している。〈思考力、判断力、表現力等〉
- ・自分の尊敬する人物や紹介したい人物について、自分の考えを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話そうとしている。〈学びに向かう力、人間性等〉

5 単元の評価規準

（本単元における「話すこと [やり取り]」については、目標に向けての指導は行うが、本単元内で記録に残す評価は行わない）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
聞くこと (聞)	<知識> ①「人称を表す代名詞（目的格）」や「疑問詞whyおよび接続詞because」の特徴やきまりを理解している。 <技能> ②「人称を表す代名詞（目的格）」や「疑問詞whyおよび接続詞because」の理解をもとに自分の尊敬する人物や紹介したい人物について聞きとる技能を身に付けている。		
読むこと (読)	<知識> ①「人称を表す代名詞（目的格）」や「疑問詞whyおよび接続詞because」の意味や働きを理解している。 <技能> ②「人称を表す代名詞（目的格）」や「疑問詞whyおよび接続詞because」の理解をもとに自分の尊敬する人物や紹介したい人物について書かれた英文の内容を読み取る技能を身に付けている。		
話すこと [発表] (発)		自分のことをよりよく知ってもらうために、尊敬する人や紹介したい人物について、自分の考えを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容をクラスメイトやALTに述べている。	自分のことをよりよく知ってもらうために、尊敬する人物や紹介したい人物について、自分の考えを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容をクラスメイトやALTに述べようとしている。
書くこと (書)		自分のことをよりよく知ってもらうために、尊敬する人物や紹介したい人物について、自分の考えを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を英語で書いている。	自分のことをよりよく知ってもらうために、尊敬する人物や紹介したい人物について、自分の考えを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を英語で書こうとしている。

6 単元の指導と評価の計画（6時間扱い）

時	◆ねらい ○活動	評 価			
		知・技	思・判・表	態	◎評価規準<評価方法>
1	◆本単元で理解する内容や身に付ける技能および単元を通してできるようになることを確認する。 ◆「人称を表す代名詞（目的格）」の用法の特徴やきまりに関する事項を理解し、他者に仲間の好きなことや事実について伝える活動を通して、事実を整理し、「人称を表す代名詞（目的格）」の用法を活用しながら英語で話をする。				
	○エミリーと健との登場人物に関する対話を基に、単元の内容についての理解を深める。 ○情報端末を活用しながら、自分の尊敬する人物や紹介したい人物について、既習の事項をもとに、クラスメイトに英語で説明してみる。 ○「人称を表す代名詞（目的格）」の用法の特徴やきまりについて、言語活動を通して理解する。				
2	◆教科書本文（Think 1）を聞いたり読んだりして内容を理解し、登場人物に関する事項を英文で描写する活動を通して、他者に自分の考えを効果的に伝える方法を確認するために、本課で学習した用法などを活用して、事実を話す。				
	○「人称を表す代名詞（目的格）」の用法が用いられた教科書本文の内容を理解する。				

	○教科書本文の内容を活用し、登場人物に関する事項を英文で描写する活動を通して、他者に自分の考えを効果的に伝える方法を確認するために、本課で学習した用法などを活用して、事実を話す。 ○教科書本文の内容やそれに関連した内容について、自分の考えをもち、他者と意見交換する。				
3	◆「疑問詞whyおよび接続詞because」の用法の特徴やきまりに関する事項を理解し、クラスメイトに対して場面絵等の様子を描写し、伝える活動を通して、事実を整理し、本課で学習した用法を活用しながら英語で話をする。 ○「疑問詞whyおよび接続詞because」の用法の特徴やきまりについて、言語活動を通して理解する。 ○場面絵等の様子を描写する活動を通して、本課で学習した用法などを活用して、事実を話す。				
4	◆教科書本文(Think 2)を聞いたり読んだりして内容を理解し、登場人物に関する事項を英文で描写する活動を通して、他者に自分の考えを効果的に伝える方法を確認するために、本課で学習した用法などを活用して、事実を話す。 ○「疑問詞whyおよび接続詞because」が用いられた教科書本文の内容を理解する。 ○教科書本文の内容を活用し、登場人物に関する事項を英文で描写する活動を通し、他者に自分の考えを効果的に伝える方法を確認するために、本課で学習した用法などを活用して、事実を話す。 ○教科書本文の内容やそれに関連した内容について、自分の考えをもち、他者と意見交換する。				
本時1					
5	◆自分の尊敬する人物や紹介したい人物について、自分の考えを、簡単な語句や英文を用いてクラスメイトやALTに伝える。 ○教科書本文の内容を活用し、自分の尊敬する人物や紹介したい人物について、考え、クラスメイトやALTに伝える。 ○他者との英語での意見交換を基に、自分の意見を再度まとめ、英文を用いて書き表す。		発	発	◎自分のことをよりよく知ってもらうために、尊敬する人や紹介したい人物について、自分の考えを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容をクラスメイトやALTに述べている。＜活動観察及び分析＞ ◎自分のことをよりよく知ってもらうために、尊敬する人や紹介したい人物について、自分の考えを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容をクラスメイトやALTに述べようとしている。＜活動観察及び動画分析＞
本時2					
6	◆自分の尊敬する人物や紹介したい人物について、自分の考えを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を英語で表す。 ○他者との英語での意見交換や教科書本文の内容を活用し、自分の尊敬する人物や紹介したい人物について、自分の考えを形成、整理、再構築し、英文で書き表す。		書	書	◎自分のことをよりよく知ってもらうために、尊敬する人物や紹介したい人物について、事実や自分の考えを整理し、簡単な語句や文を用いて、まとまりのある英文を書いている。 ＜ワークシート分析＞ ◎自分のことをよりよく知ってもらうために、尊敬する人物や紹介したい人物について、事実や自分の考えを整理し、簡単な語句や文を用いて、まとまりのある英文を書こうとしている。 ＜活動分析及びワークシート分析＞
後日	・パフォーマンステスト ・ペーパーテスト		発	発	◎自分のことをよりよく知ってもらうために、尊敬する人物や紹介したい人物について、自分の考えを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容をクラスメイトやALTに述べている。＜活動観察及びワークシート分析＞ ◎自分のことをよりよく知ってもらうために、尊敬する人物や紹介したい人物について、自分の考えを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容をクラスメイトやALTに述べようとしている。＜活動観察及びワークシート分析＞
			聞		

7-1 本時1の学習

(1) 目 標

- 教科書本文(Think 2)を聞いたり読んだりして内容を理解し、登場人物に関する事項を英文で描写する活動を通して、他者に自分の考えを効果的に伝える方法を確認するために、本課で学習した用法などを活用して、事実を話すことができる。

(2) 教 具

- ・コンピュータ ・プロジェクター ・情報端末(生徒用タブレット PC) ・ワークシート

(3) 展 開 (4 / 6)

過程	学 習 活 動 ・ 学 習 内 容 《形 態》	・ 指導上の留意点 ◎評価 (※本時は形成的評価) ☆学校研究との関連
導入・ 復習 15分	1 ウォームアップ (1) あいさつ (2) 歌 “24/Seven” (Big Time Rush) 《一斉》 (3) Topic Talk 《一斉》 “Where do you want to visit in the world?” (4) 教師によるフィードバック 《全体》 2 教科書内容に関する復習 (Review “Program 6” & “New Words”) ・教科書の内容について、英語でのやり取りを通して、復習を行う。	・音声面を中心に、歌詞を基にフィードバックを行う。 ・机間指導を行いながら、適宜、教師は内容に関するフィードバックだけでなく、英語の音声面や表現等に対するフィードバックも行う。 ・活動内での英語の運用方法や会話の内容について、フィードバックを適宜行う。 ☆【手立て1】「挑戦心を引き出す指導の工夫」 ・英語での生徒とのインタラクションを図ることで、既習内容に関する個々の理解度を確認する。 ・意味や読み方などに課題があった語を抽出し、扱う。 ・英語の音と文字を関連させながら、イメージと結び付けることで理解が深まるようにする。
展開 30分	3 教科書を用いた活動(Practice Reading) (1) Reading in Chorus 《全体》 ・自分たちで読み方を考え、音読活動に取り組み、適宜教員が修正をしながら行う (2) Individual Reading 《個人》 ・個人で立って2回、座って1回読む (3) 教師によるフィードバック 《全体》 (4) Blank Reading 《全体》 ・英文の合間に空白を設けた状態で音読を行う (5) Drop Reading 《一斉》 ・教科書本文の文字が一定の速度で落ちるアニメーションに合わせて英語で読む (6) Kakitorin (Flip Writing) 《一斉》 ・教科書本文を書いて再生する ・適宜紙をひっくり返ししながら取り組む (7) Story Retelling 《ペア》 ・Think 1、2の内容を踏まえ、映画の登場人物について1分で説明する ・自分の考えを最低2文は付け加え、パートナーへと英語で伝える	☆【手立て1】「挑戦心を引き出す指導の工夫」 ・教科書の英文をただ読むのではなく、登場人物の会話の意図や英文の意味合いを考えさせ、音読活動において生徒の力でよりよく取り組める方法を見出させるようにする。 ・机間指導をし、個々の理解度や到達度を把握する。 ・適宜スクリーンを活用することで、音から文字を導き出すことの意義を理解させる。 ・活動中における英文の読み方を中心とした言語運用面に関するフィードバックを中心として行う。 ・英語の発音やイントネーション、拍に関する知識を基に英文を再生したり、音読したりすることでより意味が伝わることを意識させながら取り組ませる。 ・速度を上げて音読するのではなく、(1)～(4)までの活動を行った成果を基に、音声上の課題に着目させながら英文を口頭で再生させる。 ・英文を書いて再生させることで、音読活動で培った英語の音声の特徴をイメージさせ、次の活動に繋げられるようにする。 ・Program 6における会話文を基に、1分間でパートナーに対して登場人物の特徴や置かれている状況について英語で説明をさせる。 ・説明が終わった生徒については残り時間いっぱいを使い、説明した内容を踏まえて、自分自身の気持ちや考えについても英文でパートナーに伝えさせる。

整理 5分	【表出されるであろう文】 He's Jackson. He lives in Kenya. We can see him in a movie. Every morning he runs and walks 15 kilometers to school. It takes two hours. He goes to school with his sister. And he walks across the savanna with her. Of course、it's a dangerous place because elephants sometimes attack school children. So their parents pray for their safety every day. By the way、why does Jackson go to school? Because he has a dream. Then what is his dream? You can see the answer in a movie. So please watch the movie.	・机間指導を行いながら個々の取り組み状況について把握するとともに、生徒に対して適宜フィードバックを行う。 ◎自分のことをよりよく知ってもらうために、尊敬する人物や紹介したい人物について、自分の考えを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容をクラスメイトやALTに述べている。＜活動観察＞ ※形成的評価 ◎自分のことをよりよく知ってもらうために、尊敬する人物や紹介したい人物について、自分の考えを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容をクラスメイトやALTに述べようとしている。＜活動観察＞ ※形成的評価 ・発表生徒の取り組みとペアで取り組んだ内容とを聞き比べながら、よかったところや改善点などを想起させ、全体で共有を図る。 ・教科書を見ずに、音読活動において使った便利なフレーズや相手に効果的に伝わったと感じた英文を、協働ツール上でのファイルに入力させる。
	(8) Presentation in Class 《全体》 ・全体場で実際に行った発表を行い、シェアをする (9) Writing "Story Retelling" 《個人》 ・自分が本文内容を再生する際に使った便利なフレーズを英語でまとめ、協働ツールで入力する	
	4 まとめ (1) Preparation for the Next Class 《個人》 ・次時に行く自分の好きな人や紹介したい人について、具体的に何を伝えるべきか整理する。 ・情報端末を活用し、スライド作成を行う。 (2) Self-Check Sheet 《一斉・個人》 ・振り返りを記入する。 5 あいさつ	☆【手立て2】「個別最適な学びの工夫」 ・次回に向けて、自分の伝えたい人について、相手により内容が効果的に伝わるように、スライド上の写真のみでまとめるよう促す。 ・第1時で用いたマッピングシートへの加筆修正と振り返りシートの活用により、これまでの学びや自身の成長、変容を自覚させる。 ・次時には他者へと自分の紹介したい人を伝える活動を確認するとともに、本時に行った活動を振り返り、内容のまとめをさせる。

7—2 本時2の学習

(1) 目標

- ・自分の尊敬する人物や紹介したい人物について、自分の考えを、簡単な語句や英文を用いてまとまりのある内容をクラスメイトやALTに伝えることができる。

(2) 教具

- ・コンピュータ
- ・プロジェクター
- ・情報端末(生徒用タブレット PC)
- ・ワークシート

(3) 展開 (5/6)

過程	学習活動・学習内容《形態》	指導上の留意点 ◎評価 ☆学校研究とのかかわり
復習 4分	1 ウォームアップ (1) あいさつ (2) 歌 "High Hopes(Panic! At The Disco)"《一斉》	・発音とリズムを意識して練習をさせる。 ・音声面を中心に、歌詞を基に、フィードバックを行う。
導入 8分	2 会話場面をもとにした英会話活動 (1) 場面・状況確認 みんなの事を少しずつ知り始めたALTがより、君たちが普段どんなことを考えているか知りたいと思っている。あなたの尊敬する人や紹介したい人について発表をするためにどうすればいいか考え、絵を用いたプレゼンテーション形式での発表にて実践する。	☆【手立て1】「挑戦心を引き出す指導の工夫」 ・単元の最初に行った活動や目的を再度捉えさせ、ALTに英語で説明するということ、尊敬する人や紹介したい人を説明しながら、普段どんなことを考えているのか等を相手にわかってもらえるようにするためにはどう伝えればよいかについて、様々な視点から生徒に考えさせ、どのように英語による発表を行うかについて意識を向けさせる。

展開 32分	(2) “Presentation in Triangle Exercise! 1st Round” 《グループ》 ①活動のねらいを確認する。 ・課題やねらいをわかりやすく提示する。	
	《活動のねらい》“Presentation in Triangle Exercise!” ・1分間で、英語を使って自分の尊敬する人や紹介したい人について効果的に相手に伝わるように工夫して伝えよう。 ②活動の手順と評価基準を確認する。 ③3人組を作り、役割分担を行う。 ・Speaker（話し手）・Listener（聞き手） ・Observer（観察者（評価者）） ④観察者の生徒は発表している生徒の様子を見聞きし、チェックシートに基づいて評価を行う。聞き手については、話し手のタブレットパソコンで撮影し、フィードバックの際に活かす。 ⑤役割を交代しながら活動を行う。 (3) 生徒によるPresentation 《個人》 (4) 教師によるフィードバック 《全体》 (5) “Presentation in Triangle Exercise! 2nd Round” 《グループ》 (6) 生徒によるPresentation 《個人》 (7) 教師によるフィードバック 《全体》 (8) “Telling Your Idea to Your Partner” 《ペア》 「活動をもとに、自分が伝えたい人について1分間で、隣の仲間に英語でかつ口頭にて伝えてみよう！」 ※話し手のタブレットパソコンで撮影し、フィードバックの際に活かす。 ・適宜、生徒とのインタラクションを行い、具体的な場面と共に評価基準についての確認をさせる。 ☆【手立て2】「個別最適な学びの工夫」 ・机間指導を適宜行い、生徒個々の理解度を把握することや活動の取組への指導を行う。 ・タブレット端末を使いながら活動を記録させ、振り返りの時間に活用するように促す。 ・内容面や言語運用面において優れているペアに発表を促し、全体で共有し、どの点が良いか、音声・内容の両側面から考えさせる。 ・よりよい会話活動にするための工夫や音声・内容の両側面に関するフィードバックを行い、生徒個々の取組について振り返らせる。 ・(2)、(4)を踏まえ、別のグループで再度活動を行わせる。 ・タブレット端末を使いながら活動を記録させ、振り返りの時間に活用するように促す。 ・内容面や言語運用面において優れているペアに発表を促し、全体で共有し、どの点が良いか、音声・内容の両側面から考えさせる。 ・よりよい会話活動にするための工夫や音声・内容の両側面に関するフィードバックを行う。 ・“Presentation in Triangle Exercise!”を通して、自分が実際に話を進めていきたい話をペアの生徒に英語で話をさせ、学びの変容を自覚させる。 ◎自分のことをよりよく知ってもらうために、尊敬する人物や紹介したい人物について、自分の考えを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容をクラスメイトに伝えている。＜活動観察及び動画分析＞ ◎自分のことをよりよく知ってもらうために、尊敬する人物や紹介したい人物について、自分の考えを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容をクラスメイトに伝えようとしている。＜活動観察及び動画分析＞	
整理 6分	3 まとめ 《一斉・個人》 “Writing Your Idea” 「実際に話そうと思っている内容を英文で書いてまとめてみよう！」	☆【手立て2】「個別最適な学びの工夫」 ・当日自分が英語で伝えたいことを英文としてプレゼンテーションソフトのスライド上のノート欄に入力をさせることで、自身の成長を確認させる。 ・内容のまとめと次時の連絡をする。
	4 あいさつ	